

安全運転アドバイス

若年者ドライバーの事故防止編

自動車事故の統計をみると、若年層の交通事故件数は全年齢層と比較して

約1.8倍と高い水準にあります。(注) また、若年者事故の半分以上は、

「脇見・漫然運転」「動静不注視」「運転操作不適」によって

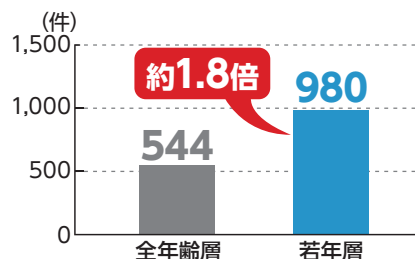
発生しています。それぞれ具体例と対策を確認し、

事故防止・安全運転につなげましょう。

次に該当する方は特に注意!

- | | |
|---|---|
| ☐ 運転免許を取得して間もない | ☐ 日頃から疲労を感じている |
| ☐ 勤務の都合で慣れない土地で運転する必要がある | ☐ 自分が事故に遭うことはないと思う |

年齢層別免許保有者10万人当たりの交通事故件数(注)



事故の具体例とその対策

1 脇見・漫然運転 ●運転に集中していないことによる事故

若年者ドライバー事故の **32.5%**(注)



具体例

- ・外の景色やカーナビを見ていたら、前の車両に追突した。
- ・考えごとをしていたら、右折時に歩行者に気づくのが遅れ、接触した。等

対策

運転に集中しないと事故を起こす危険が高まります。

- ◇スマートフォンやカーナビの操作等は、必ず安全な場所に停車して行いましょう。
- ◇運転中は運転に集中し、慣れた道であっても必ず安全確認をしましょう。

2 動静不注視 ●相手の状況(危険)を軽視したことによる事故

若年者ドライバー事故の **13.8%**(注)



具体例

- ・交差点で右折をする際、対向車が来ていたが、まだ距離があると思い右折したら、対向車と衝突した。
- ・追い越し時、前方車両のスピードが思ったより速く、自車の後方部分が接触した。等

対策

思い込み運転が事故につながるケースがあります。

- ◇「相手が止まってくれるだろう」、「先に行けるだろう」といった思い込み運転は行わないようにし、相手の動きや状況を正確に把握して運転しましょう。

3 運転操作不適 ●運転操作誤りによる事故

若年者ドライバー事故の **8.1%**(注)



具体例

- ・スピードを出してカーブに進入したら、カーブを曲がり切れずにセンターラインを越えてしまい、対向車と正面衝突した。
- ・雨天時に急ブレーキをかけたら、スリップを起こし前方車両に衝突した。等

対策

運転操作の誤りは、重大な事故を引き起こす可能性があります。

- ◇運転に自信がある場合でも無理をせず、速度を落として運転しましょう。
- ◇雪道や凍結路面、濡れた路面では、急ブレーキ・急発進はやめましょう。

(注) 警察庁交通局「平成29年中の交通事故の発生状況」より算出(若年層:20~24才)

あたり前のことを確実に行うことが事故防止につながります。ぜひ安全運転をお願いします。